

いちご病害虫情報第3号(8月)

平成27年8月21日
栃木県農業環境指導センター

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類	備考
ほ場率	発生ほ場数	3	0	2	0	4	18	2	1	1	総調査ほ場数: 58か所 総調査株数: 1,450株 (調査株数 25株) ○今月の病害虫発生状況○ ・炭疽病の発生ほ場が平年並に認められます。 ・うどんこ病の発生はやや少ない状況です。 ・ハダニ類の発生は平年並ですが、一部で発生株率の高いほ場が見られます。
	本年平均値	5.2	0.0	3.4	0.0	6.9	31.0	3.4	1.7	1.7	
	平年値	6.5	0.0	11.6	0.9	21.3	37.5	12.7	2.3	0.9	
	(本年平均値/平年値) × 100	80.0	-	29.3	0.0	32.4	82.7	26.8	73.9	188.9	
株率	発生程度	平年並	少	やや少	少	やや少	平年並	やや少	平年並	多	
	発生株数	0	0	0	0	12	124	4	0	0	
	本年平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	8.6	0.3	0.0	0.0	
	平年値	0.3	0.0	1.2	0.0	4.0	9.0	0.8	0.1	0.1	
(本年平均値/平年値) × 100	0.0	-	0.0	-	20.0	95.6	37.5	0.0	0.0		
概 評		やや少	少	やや少	少	やや少	平年並	やや少	やや少	平年並	

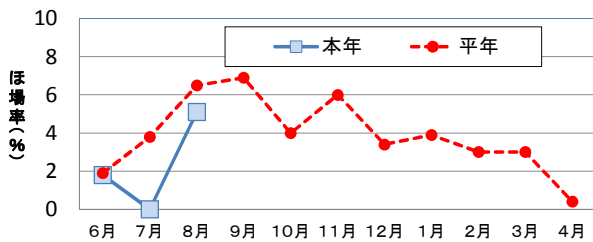


図1 炭疽病発生ほ場率

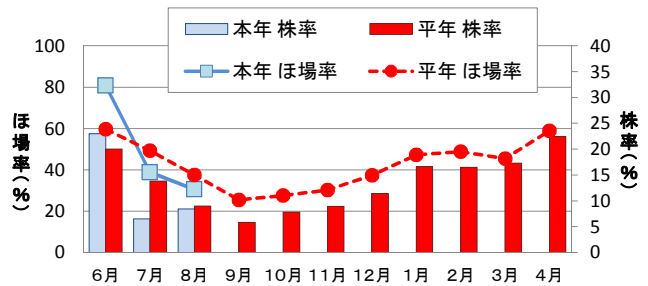


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

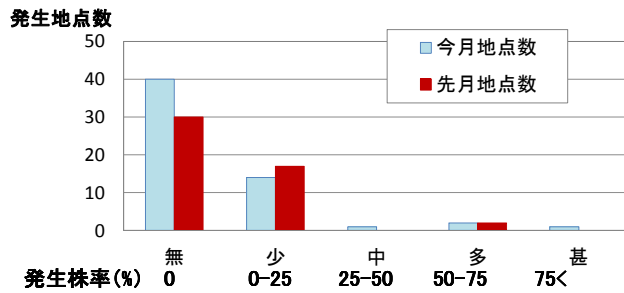


図3 発生程度別の地点数(ハダニ類)

○炭疽病対策

- ・発病株は見つけ次第取り除き、ほ場外で処分する。また、潜在感染株を本ほ場に持ち込まないために、発病株周囲の株は使用しない。
- ・水滴の飛散等によって伝染するので、水の跳ね返りのないようなかん水を行う。また、茎葉のぬれ時間が長ならないよう、かん水は晴天日の午前中に行い、曇雨天日及び夕方のかん水を控える。
- ・水冷方式による夜冷育苗を行う場合、葉面の結露を防ぐため、循環扇等を利用し、施設内の空気を対流させる。
- ・症状が出てからの防除は困難なので、予防を主体にベルコート水和剤等を散布する。
- ・発病株が見られたら、速やかにサンリット水和剤等を散布する。

○ハダニ対策

- ・雑草はハダニ類の発生源となるため、除草を徹底する。
- ・苗による本ほへの持ち込みを防ぐため、育苗での防除を適正に行う。
- ・育苗中は気門封鎖剤等を活用し、本ほ定植後に使用可能な有効薬剤を温存する。
- * 当センターHPに「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」を掲載中。



写真 炭疽病 斑点型病斑 (円内の黒斑が病徴)

○今月の技術情報(技術指導班)○(8月)

- ・炭疽病は現在、平年並の発生状況ですが、高温傾向の上、大気の状態が不安定で大雨や雷雨が続き、発生しやすい環境となっています。苗床での発生、被害拡大がないよう、ほ場観察と発生予察情報を参考に防除意識を高めましょう。
- ・うどんこ病はやや少ない状況ですが、気温が低下してくる秋以降の発生を抑えるため、夏期にも予防を継続することがポイントです。
- ・ハダニ類、ハスモンヨトウ類が平年並の発生になっています。育苗期間中に徹底した防除を行い、本ほに持ち込まないようにしましょう。
- ・アザミウマ類は、育苗ほ場周辺的环境によって発生程度は変わります。青色や黄色の粘着トラップを設置して成虫の発生状況を確認しましょう。
- ・特に、定植後に天敵導入を予定されている場合には、これから使用する農薬の天敵への影響日数を必ず確認しましょう。
- ・育苗期の後半になり、管理の重要度が増す時期ですので、病害虫の心配がない、健全株の確保に努めましょう。